

姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

ニュース

協会報

第 30 号

平成10年5月9日発行

編集・発行

茨木市国際親善都市協会



茨木市民親善訪中団の15人

目次

- 市民15人安慶市を訪問 P.2
- 内海町への訪問団、第14回英語スピーチ大会報告 P.3
- '98俳句コンテスト優秀作品決定、国際美術コンテストに初挑戦 P.4
- 姉妹都市活動室、青少年活動室、会員募集 P.5
- '97国際交流の集い P.6
- ふれあい交流盛会!! P.7
- 茨木市制施行50周年記念行事、寄付、国際交流の足あと P.8

市民15人安慶市を訪問

西の空が赤く染まるころ、安慶空港で、茨木市民親善訪中団は、安慶市幹部の出迎えを受けました。平成9年10月22日(水)朝7時市役所を出発、上海を経由して空路安慶市に到着。団長の清野氏は、「その日の内に、安慶市に着くなど隔世の感がある」。

宿泊先の安慶大酒店では、団員それぞれの安慶市、中国への思いを語り、親睦を深め合いながらの夕食となりました。

翌23日、訪中団の安慶市での行事が始まりました。周安慶市長への表敬訪問、安慶・茨木友好天象館、経済技術開発区、小学校など見学、また安慶市主催の歓迎会では、茨木市、安慶市の友好を一層深めるものとなりました。

24日は、市内見学、歓送会と、慌ただしい安慶市での3日間でしたが、市民それぞれに自分たちのまちを良くしたいという意気込みが、いたるところで感じられ、安慶市の更なる発展が見えるようでした。

今回の訪中団は、古都西安にも訪れましたが、やはり、「百聞は一見にしかず」。「安慶市・中国」団員それぞれに色々な思いを感じた7日間になったことと思います。(随員職員) 竹林 巧



安慶市の子ども達

末村 一子

今回、思いがけない機会に恵まれ訪中団に参加する事ができました。

安慶市は「私も仲間に入れて」と言いたくなるようなのどかでホッとする都市でした。

私が一番興味を持っていたのは、中国の子どもの生活と教育です。安慶市内の四照園小学校に行かせて頂きましたが、子ども達はとても行儀がよく、一生懸命学習していることに驚きました。一クラス65名もいるのに、皆が先生に集中しているのです。どの子の目も輝いていて、とっても可愛い笑顔を見せてくれました。聞きますと、一人っ子政策のひずみで子ども達が過保護になり我がまますぎたり、勉強勉強と追い立てられたりして問題をたくさん抱えているのだそうです。幼稚園児から国語、算数などを5時まで学習していると聞き驚きました。

安慶市では大歓迎を受け、南京、西安では数々の名所旧跡を案内して頂き、お土産話をいっぱい持って帰ることができました。

中国語を勉強して片言でも会話ができるようになったら、お世話になった皆さんに逢うため、また安慶市に行きたいと思っています。



内海町への訪問団

今回は参加された山崎多美子さんに訪問記をお願いしました。

11月20日～21日、内海町への親善の旅に初めて参加致しました。

最初は互いに遠慮しがちの人々も時間がたつにつれ、役員の方々や二人の市職員のお陰で港に着いた頃には、すっかり親しくなっていました。

内海町到着後は、内海町職員の名ガイドさんの説明に全員笑っぱなし。オリーブ記念館で



茨木市市民海の家の中庭で



二十四の瞳岬の分教場

は、表敬訪問。内海町長の挨拶や内海町の概要説明をうけ、オリーブのお土産を頂き、買い物を楽しみました。また、二十四の瞳岬の分教場では童心に返り懐かしい昔に思いを



山崎多美子さん

宿泊先の茨木市市民海の家では新鮮な魚料理に舌鼓を打ち、訪問団は楽しい一夜を共に過ごしました。

翌日はマルキン記念館、寒霞溪、吉田ダム等の見学と盛り沢山で有意義な楽しい旅でした。

第14回 英語スピーチ大会報告

市内中・高校生の堂々としたスピーチに感動

昨年11月3日、恒例の「英語スピーチ大会」が開催されました。中学生は暗唱文を、高校生は自由テーマについて、緊張しながらもそれぞれ個性溢れるスピーチを披露し、聴衆に感銘を与えました。今年には11月7日に開催する予定です。英語力向上だけでなく、貴重な体験ができますのでぜひご参加下さい。

【中学生の部入賞者】

- 1位 寺西美紀さん 「The Home Planet」
- 2位 浅川訓江さん 「The Home Planet」
- 3位 村木智湖さん 「The Home Planet」

【高校生の部入賞者】

- 1位 後藤順子さん 「My High School Life」
- 2位 犬童聡美さん 「A Great Communication Tool」
- 3位 辻西理恵さん 「I've Never Thought Such a Wonderful Communication Tool, English!」



高校生の部1位の後藤さん



出場者の皆さん

今年もミネアポリス市から俳句コンテストの作品が届きました。

昨年に引き続き参加している学生もあり、俳句への関心がますます高まっています。また、回を重ねるごとに詠みこたえのある内容が多くなり、今後このコンテストを通じて、世界的に有名なハイキスト(俳句愛好家)が誕生するかもしれません。

今回の題は“FIGURE(姿)”でしたが、寒さが厳しいミネアポリスを象徴するように、雪や寒さをテーマにした作品が目立ちました。

特に学生の部では、子どもの素直な感性で自然の美しさを捉えた自由で詩的な作品や、リズム感と内容の変化が上手く調和され、自然の厳しさと豊かさを伝えた素晴らしい作品が印象的でした。

各部門の優秀作品をご紹介します。

(翻訳：吉村侑久代)

【幼・小学生の部】 Anthony Buhr

Majestic Mountain
Very high so very high
You make me feel small

'98 俳句コンテスト優秀作品決定

堂々としたマジェスティックマウンテン
とってもとっても高い
君のおかげで僕は小さく感じてしまう

【中学生の部】 Sue Thao

Watering white clouds
Bringing life to all the earth
Clouds racing around
水分を含んだ白い雲
大地に生命を運んでくる
雲が競争するように動いている

【高校生の部】 Will Stein

On a sun lit day
A fall leaf floats on the breeze
Painting the still sky
秋晴れの日
そよ風に落ち葉がさまよう
静かな空に絵を描きながら

【成人の部】 Sara Goodnough

A tin lantern glows
Flickering as night winds blow
Dancing silhouettes
夜風が吹くと
ブリキのランプがちらちら燃える
影が踊っている

国際美術コンテストに初挑戦

今回初めてヤング・アーティスト・プログラム(国際美術コンテスト)に応募することになり、市内の中・高校へ参加をよびかけたところ、18作品の応募がありました。

このプログラムは、ミネアポリス市・茨木市文化協会が加入している国際姉妹都市協会が主催する世界的な美術コンテストで、一つのテーマに基づいて13歳~18歳の学生が自分の考えや気持ちを絵で表現するものです。

今年のテーマは「グローバル社会は一つ」。応募者からは環境問題、世界平和、人々の助け合い、地球の大切さなどさまざまな着想の作品が提出され、

「自国の平和だけでなく、他国への理解を持つ大切さを知った」、「無感情、無関心な人が多いと思われる中、自分の気持ちをしっかり持ってカラフルな感情を表に出したい」などの感想が寄せられました。

このコンテストに出品できるのは、1作品だけなのが非常に残念ですが、優秀作品は府立春日丘高等学校の木下史代さんに決定しました。木下さんの感想は「日本的なものと、外来物に共通するものは、それらを使う人間の心なので、その心のつながり(LOVE&PEACE)をイメージし描きました。絵を通して世界の人達と気持ちの交流ができることは素晴らしい。また参加したいです。」

コンテストに送られた木下さんの作品は今審査中です。



あなたも国際人になれる? 姉妹都市活動室へ!!

いまやカタカナ英語が世に溢れ、街中でも外国人をよく見かけるようになりました。国際人になるために、まずは外国人に話しかけ友人となることが第一歩ではないでしょうか?

姉妹都市活動室(IIN)では、北摂地域に住む外国人の方々を招き、世界の国々について文化や考え方を学び、最近の話題をとりあげ話合っています。また、Home Visit、Party、Picnic、Bazaarなど楽しい交流を行っています。市制施行50周年の今年はミネアポリス市民訪問団を迎え日本文化紹介など楽しい交流の機会を計画しています。

会員は高校生から70代の方までと幅広く、関心のある方ならどなたでも歓迎致します。茨木市国際親善都市協会の会員になってからご入会下さい。

例 会：毎月第1木曜日10-12am、第3土曜日2-4:30pm

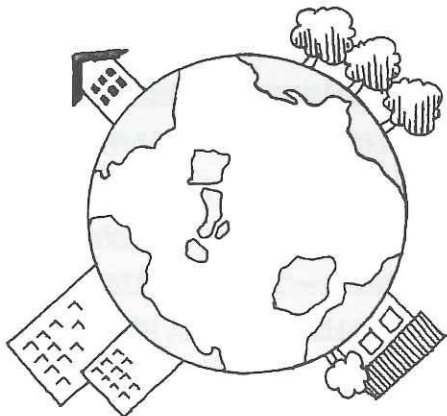
会 費：年2500円(連絡費含む)

問 合：協会事務局または代表 高 嶋 俊 男
(TEL/FAX 0726-36-6744)



イースター、ハロウィーンなどの季節のイベントを楽しみながら英語に触れる「青少年活動室」に参加しませんか? 毎月第3日曜日の2時~4時、楽しい企画を用意してあなたをお待ちしています。講師は市内在住のウェンディー久徳さん。英語力に自信がない人も、優しいスタッフのバックアップがあるので大丈夫! ゲームを中心にしたプログラムを楽しんでいるうちに英語にも自然と慣れていきます。ぜひ気軽に遊びに来て下さい。

問 合：協会事務局(TEL 0726-20-1604)



● 会 員 募 集 ●

本協会では、姉妹、友好都市交流をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、春と秋に発行する協会報や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉個人会員(一般) 2,000円 (学生) 1,000円

団体・法人会員 5,000円

〈申込先〉協会事務局(市役所南館8階自治振興課国際交流係)

☎20-1604



'97 国際交流の集い

日本語交流で楽しいひととき

昨年12月7日、恒例の「国際交流の集い」が市役所南館10階大会議室で開催されました。今回で6回目の開催ですが、市民と外国人とのふれあい交流の場をさらに増やすため、従来のバザーを中止し新趣向で行われました。当日は外国人約50名、市民約100名、合計150名が参加。歌やアトラクションで会場は大いに盛り上がりました。

第1部の最初は、ミネソタ州日本語村で、外国人に日本文化を紹介されたことがある藤木さん、佐野さんの両名によるアトラクションで幕が開き、続いて、大阪国際センターに滞在中のアフリカからの研修員4人が日本語の歌を披露、次に、他のアフリカの方々が、独特のリズムにあわせるアフリ

カンダンスを演じられ、最後にカナダから大阪大学へ留学されているエイミーさんが美しい歌声を披露されると、会場の皆さんから感嘆の声があがりました。

第2部では、10カ国、13名の外国の方々による日本語スピーチ大会を開催。流暢に日本語を話す方、たどたどしさがある方、日本語の勉強を始めて日が浅い方など表現力にはかなりの開きがあったものの、参加者は日本の印象や国際化などをテーマに一生懸命スピーチされ、会場から大きな拍手がおこっていました。

第3部では、市民と外国の方々が、それぞれグループになり、自由なテーマで日本語での交歓会が行われました。最後は、大きな笑い声とシャッターの音が飛び交う和やかな雰囲気の中で、交流の集いが終了しました。

ふれあい交流盛会!!

3月14日に開催された国際協力事業団(JICA)大阪国際センターの海外からの研修員との「ふれあい交流」。姉妹都市活動室のメンバーでボランティア通訳の菅 照男さんの報告です。

さわやかな春の日差しを受けて、2台のバスに乗る市民24人と、12カ国の海外研修員20人は、市役所前を9時40分に出発しました。

第1訪問地は十日市浄水場です。職員の方々の懇切丁寧な説明でみんな大満足。大事な水の処理、給水の仕組みに目の覚める思いでした。

第2訪問地は、竜王山荘忍頂寺スポーツ公園です。所長さんの案内で理想的で安価なこの施設に全員が一度は泊まりたいと思いました。ここでサンドイッチとジュースの昼食タイムです。

午後からの第3目的地は、万博公園内にある待望の国立民族学博物館。貴重な常設展はもちろん、極めて面白いアフリカサ

バナ現代絵画展や「なかはどうなってるの?民族資料をX線でみたら」、など驚きいっぱいの発見ルートであり、ただ、時間の早く過ぎるのが惜しまれる愉快的なコースでした。

さて、第4の目的地はJICA大阪国際センターです。ささやかなパーティーが開催され、お国自慢のコーラスが陽気に飛び出し、市民も日本の歌を披露され、皆さん大満足の様子が窺われました。

次回は9月頃開催の予定と聞いておりますが、皆さんには市広報「お知らせ版」に注目され、ぜひご参加下さい。終わりに、事務局職員の方々、JICE並びにボランティア通訳の方々に深甚の謝意を表しまして、この短いレポートを終わります。

菅 照男さん(右端)





茨木市制50周年

緑いっぱい 夢いっぱい
みんなでつくる 笑顔の街

茨木市制施行50周年記念行事

茨木市は昭和23年、大阪府下で13番目の市として誕生し、今年で50周年を迎えます。

その記念行事の大目玉は、9月に来茨するミネソタ・オーケストラ公演です。

大植英次氏が指揮者に就任以来、ミネアポリスを拠点に幅広い演奏活動を行い、一段と名声の高まったオーケストラです。今回初めて日本公演を行う、世界的オーケストラの公演をご鑑賞下さい。詳細は6月号広報「お知らせ版」をご覧ください。

また、11月3日には「50周年記念式典」が開催され、姉妹・友好都市のミ市・安慶市・内海町の代表が招聘される他、同時期にミ市と安慶市から代表団が訪問します。姉妹・友好都市との交流を大いに図る機会でしょう。

この他、市自治振興課では記念グッズ(テレホンカードやエコーはがき)を販売され、市広報広聴課では市民ハンドブックを作成し、市内全戸に配布される予定です。

また、「環境フェア」(10月)・「緑化フェア」(10月)・「まちづくりフォーラム」など、全庁的に記念行事が計画されています。

寄付

茨木市の国際交流事業の推進のためにと次の方から温かいご寄付をいただきました。ご厚志に心からお礼申し上げます。(11月~4月、敬称略)
〈市へ〉 社団法人茨木カンツリー倶楽部
(1,000万円)

茨木市における国際交流の足あと (第28号以降の経過)

平成9年(1997年)

- 5月 「理事会」と「総会」開催
- 5月 「小豆島オーリーブマラソン全国大会」に市民101人参加
- 6月 韓国・馬山青年会議所一行8人山本市長表敬訪問
- 6月 オーストラリア・ワガワガ市ロータリークラブ一行9人山本市長表敬訪問
- 7月 「茨木市少年サッカーチーム」一行39人ミ市訪問
- 7月 茨木東ロータリークラブ交換学生ジャスティン・ラスキ君、トニー・ワーカー君山本市長表敬訪問
- 7月 「茨木市キャンプ交流訪問団」一行15人ミ市訪問
- 8月 「ミネアポリス市ダンス交流訪問団」一行7人山本市長表敬訪問
- 10月 「茨木市友好訪中代表団」一行5人安慶市訪問
- 10月 ミネアポリス市文化協会会員ジョン・コントラ夫妻茨木市表敬訪問
- 10月 ミネアポリス水上祭関係者一行4人山本市長・松島議長表敬訪問
- 10月 「茨木市民親善訪中団」一行15人安慶市訪問
- 11月 「安慶市教育友好代表団」一行7人来茨。小・中・高校の見学
- 11月 「内海町への市民訪問団」一行20人内海町訪問
- 12月 「国際交流の集い」開催



ジャスティン君とトニー君



ジョン・コントラ夫妻



水上祭関係者